

風土を温める あたた

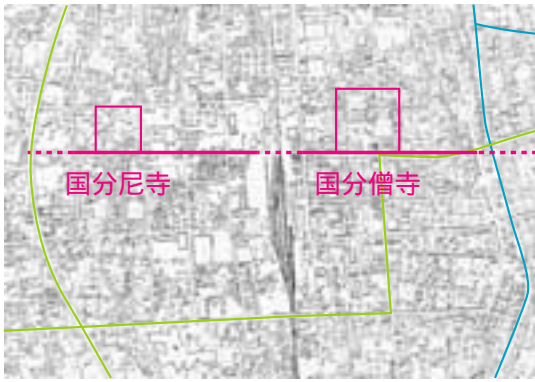
シリーズ 高山の文化財⑤

【市指定史跡】 国分尼寺 金堂跡

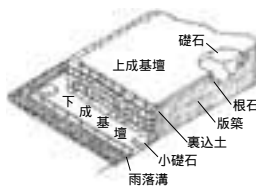
現在の国分寺通りから地下道を経て辻ヶ森三社に至る道は、かつて高山盆地を東西一直線に横断しており、この道に面して国分僧寺と国分尼寺が、約五五〇呎の距離をおいて建っていました。

ても両寺が建設されました。国分僧寺は現在でも同名の寺院があるため広く知られていますが、国分尼寺はその場所が近年まで分からず、いくつかの説がありました。

今から約一三五〇年前、聖武天皇の命令により、お坊さんの寺である国分僧寺と尼さんの寺である国分尼寺が全国に造られ、飛驒の国におい



国分尼寺の所在地が明らかにされたのは、辻ヶ森三社（岡本町二）の社殿部分の発掘調査が行われた昭和六十三年のことです。現在社殿のある場所は周囲よりも少し高くなっていますが、ほぼこの中に収まるような形で国分尼寺の金堂が建っていました。基壇（建物に乗る部分、右図）の高さは約一・二メートルあり、版築という土を水平に叩きしめながら積み上げていく工法でできており、つるは



基壇模式図

しでは掘れないほど固くなっています。

建物の構造は注目に値し、前側四分の一は壁がなく柱のみが立っていたことが分かりました。同じ構造は奈良の唐招提寺金堂にも見られ、（下図）当時の最新の建築方法が飛驒の地でも取り入れられていたのです。

建物の大きさは、南北方向が一九・六七呎、東西方向が三一・七八呎もあり、唐招提寺と比べても東西方向で1呎ほど小さいだけで、たいへん大きな建物でした。



金堂基壇の礎石（上空から）

唐招提寺金堂立面図



正面図



（前）側面図（後）

現在、JR高山駅周辺の整備が進められており、地下道は車も通行できる道路として直線で結ばれる予定になっています。かつての重要な直線道路が、平成の世にまたその姿を取り戻そうとしています。

新しくできる道を通るときには、この道路に面して並び建っていた二つの寺を思い浮かべ、古代のロマンに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

所有者 辻ヶ森三社
所在地 岡本町二丁目二二八番地
時代 奈良時代
【見学】 現在金堂の跡は、埋め戻されて社殿の下にあります。玉垣の外側から見学しましょう。